

I E A 石油市場レポートの概要（2017年5月16日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2017年前半の世界の石油需要の伸びは、インド、米国、ドイツ及びトルコといったこれまで堅調だった国の需要の弱さにより、11.5万バレル/日に縮小した。しかしながら、2017年の世界需要は、依然として130万バレル/日増加し、9,790万バレル/日となることと見込まれる。
2. 4月の世界の石油供給は、OPEC非加盟国（特にカナダ）での生産減により、14万バレル/日減少した。9,617万バレル/日の生産量は、OPEC非加盟国が増産に回帰しているにもかかわらず、一年前より9万バレル/日少ない。OPEC非加盟国による供給は、2017年に60万バレル/日の増加が見込まれている。
3. 4月のOPEC加盟国の原油生産は6.5万バレル/日増加し、3,178万バレル/日となった（ナイジェリアとサウジアラビアの増産がリビア・イランの減産分を上回った）。2016年4月と比較すると、石油生産は53.6万バレル/日減少している。年始来の減産合意の遵守水準は96%と引き続き堅調である。
4. 3月のOECD加盟国の石油民間在庫は、2ヶ月連続で減少し、30.25億バレルとなった（3,290万バレル（110万バレル/日）の減少）。石油製品在庫は、精製量の減少と輸出量の増加により、急減に減少した。2017年の第1四半期全体では、OECD加盟国の在庫は、主に1月の大きな積み増しにより、2,410万バレル（30万バレル/日）増加している。4月の速報値は、OECD加盟国での在庫増を示唆している。
5. 原油指標価格は4月11日の後で下落し、OPEC減産合意前の昨年11月後半の水準で取引されていたが、5月15日にロシアとサウジアラビアが減産合意の延長への支持を示した後に上昇した。硫黄分の高い品種は、引き続き低い品種より高値で取引されている。
6. 2017年第2四半期において、石油精製活動の季節的な減少となり、2017年第1四半期よりも37万バレル/日低くなったが、7-8月には240万バレル/日上昇するだろう。OECD加盟国がこの上昇をリードするが、非OECD地域では、中東の製油施設の閉鎖やメンテナンス、ラテンアメリカでの不調、インドの成長横ばいがあり、中国やロシアでの成長によって帳消しにはならない。